有明炭輸送を一部変更

無視できなかったか、反対の声

有明炭鉱がいよいよ本格的に採炭を開始し、その輸送がいよいよ重大問題化するものと思われる矢先、会社はこのほど、かねてから陸送だけの計画をおしだしてきていたが、一部ではあるが海上輸送も考えるという計画変更を申し入れてきた。

三池労組は「明らかに陸送反対闘争」が動かしたのだと受け取り、いっそう闘いを強めることをきめている。

こんど会社は三池労組に対し、有明炭輸送計画の一部変更について申し入れてきた。

とりあえずその内容について見れば、次の通りである。

一、トラック輸送について

①②省略。

③交通安全対策について

(イ)高田町に離合箇所を四カ所つくり、道路の補修、および児童通学対策も検討する。(ロ)法規を守らせ、仕業点検および運送ルートを守らせる。(ハ)過積みはさせない。

④公害対策について　(イ)シートをかぶせ、トラックの除塵を行う。(ロ)落炭処理を行う。運送ルートのパトロールを行う。(ハ)ロードスイパーにより道路清掃をする。(ニ)騒音防止に努力する。

⑤海上輸送について　(イ)昭和五十年下期より二百トン積みのチャーター船四隻で行う。(ロ)有明炭鉱に五十メートルバースをつくる。(ハ)航路は澪筋とし、ノリ時期三ノットとする（他は六ノット）。(ニ)航路距離七浬。時間は片道一時間半。(ホ)二十四時間運航として、航路での離合はさせない。(ヘ)港務所の受入れ側は築港内のトラックレーンで行い、入船橋通過し、三川選炭場に送る。概略、以上の通りである。

道わりながら、有明炭や家などを陸送反対署名活動。

倒産、十一月も千件超す

【連合】帝国興信所の調べによると、十一月の倒産は千百十五件で、これまでの最高だった十月の千百九件を上回った。また東京商工リサーチの調べでも千百二十三件になっている。負債金額は、帝国興信所の調べでは千六百三十二億三千五百万円で、三月以来九カ月連続して千億円台になっている。倒産の原因は放漫経営もあるが、十月以来売り上げの減少や売掛金の回収難など不況の浸透によるものが増えている。

組織統一めざす

富士タクシー　分会から礼状

このほど全国一般労組大牟田支部の黒崎委員長と、同労組富士タクシー分会の太田分会長の連名で、三池労組あてに、闘争支援への御礼状が寄せられてきた。ここに、その全文を紹介し、同労組の闘いの今後の発展を心から祈っておく。

御礼状全文

師走の季節となり、毎日御繁忙のことと拝察いたします。

さて全国一般労組富士タクシー分会は、八月十四日より無期限ストライキに突入し、大変御迷惑をかけていましたが、皆さんの力強い御支援・御協力により、十一月二十六日の団体交渉によって、全面的に解決をみるところとなり、翌二十七日から全組合員元気で就労いたしました。

今次ストライキは、富士タクシー経営者の度重なる暴力的組合弾圧と、気違いじみた背信行為・約束不履行によって発生したものであります。

会社側のねらいが労働組合のマッ殺にある限り、労働組合としては妥協の余地がなく、組織防衛のためには一歩も引けない、まさに背水の陣で闘いにのぞむほかなかったものであります。が、ストライキが長期化したのは、富士タクシー経営者の異常な性格もその一因となりました。

私たちは、表現のしようもないような気違いじみた経営者を相手に、ストライキをかけて闘うことは決して本意ではありませんでしたが、近代社会にあるまじき、まるで無法地帯のような目茶苦茶な労務政策、組合員に対する暴力的おどしにたまりかねて、ついには組合員の怒りが爆発することとなり、ストライキ突入となったものです。

百五日に及ぶストライキのなかでは、会社側の悪質な暴力介入、資本と国家権力が一体となった争議弾圧、ピケ小屋撤去の仮処分執行、暴力事件のデッチ上げによる不当逮捕など、一連の弾圧が行われ、長く苦しい闘いとなりましたが、会社側が組織攻撃に狂奔すればするほど、労働者の結束は日ましに強くなり、ピケットの強化、第二組合への協力呼びかけ、生活を支えるためのアルバイトなど、長期闘争を闘い抜く体制は、周囲の共闘体制の確立と共に着実に前進しました。

労働者の強じんな、そしてねばり強い抵抗闘争の前に、まれに見る悪質な富士タクシーの経営者も企業倒産の寸前まで追い込まれ、組合側の要求を受け入れざるを得ない状態となり、労働関係を正常化する方向で解決することになりました。

三カ月半にわたる長期ストライキを闘い抜き、一名の落伍者も出すことなく、組合側の勝利のうちに闘争を終結することができたのは、なんといっても皆さんの力強い共闘・連帯と、物心両面にわたる温い支援、激励があったからこそ、身にしみて感謝しております。

私たちは皆さんの激励に応えるためにも、一層団結を固めると同時に、近い将来には組織統一を達成し、平和な職場、平和な社会を建設するために決意を新たにしています。

これからも皆さんと共に闘うことをお誓いし、今後の御指導・御鞭撻のほどよろしくお願いして、御礼のごあいさつと致します。

闘う富士タクシーへカンパ

夏季の期末手当支給をめぐって三カ月余にわたり闘われた富士タクシー労組は、その間、第二組合員にたいする説得活動をめぐる官憲の弾圧、座り込み排除の仮処分執行を受けるなど苦闘の連続であった。

それにも屈せず、六十名の組合員は、大地評、合同労組の連帯のなかで、生活を守りながら、きわめて暴力的な経営をつづける会社側の態度をしりぞけ、夏季期末手当、差別配役の廃止など諸要求の実現をかちとった。

大地評傘下のカンパ活動の内容は次のとおりとなっている。今後も労働者の連帯強化のために積極的にとりくみ、中小企業労働者ならびに未組織労働者の権利をたかめる闘いを前進させなければなりません。

×

三化	労組	二一五、〇〇〇円
三池	〃	九二、〇六二〃
東圧	〃	二三、五六四〃
全運	〃	八、一〇〇〃
西鉄	〃	一五、〇〇〇〃
日本紙管	〃	五、〇〇〇〃
曙病院	〃	二、五六六〃
生コンクリート	〃	三、二〇〇〃
中央タクシー	〃	三、一〇〇〃
西日本小松	〃	三、六〇〇〃
三池労組書記	〃	九〇〇〃
電通	〃	一一、六五三〃
合計		三八三、七二五〃

海外短信

▼イギリス各地で、労働者の賃上げ闘争が高まっている。

政府の物価政策と、賃上げ自粛政策に反対するたたかい。

▼デンマークでも、労働者七万人が反インフレと雇用保障を要求してスト。物価高騰が、怒りをかっているもの。

主張

一丸となって、三井の搾取と闘おう

インフレ・高物価の元凶である独占資本・政府の政策は、ますます矛盾を拡大しながら、貧富の階級間の格差をつくりだしている。

七四春闘のなかで、大きな闘いとなった社会的弱者に対する課題も、闘いの拡大する条件と共感を国民の間に広げた。

総評は、七四春闘の継続として秋期年末闘争を〝第二春闘〟と銘打ち、高物価・独占奉仕の政府・自民党に対決した。

従来まで、秋闘ではほとんど実力行使がされなかったものが、公労協をはじめ公務員、民間に結集された労働者は、各職場で実力を行使して闘う体制を築きあげた。この体制をさらに強力に、七五春闘・統一地方選挙に結集するため反独占・反自民の日常闘争が強化されなければならない。

炭労も、劣悪な炭鉱労働者の労働条件の改善をめざす闘いの、秋季・年末闘争を組織し、実力行使を背景に、一定の前進を闘いとることができた。

妥結の内容は、①退職金については、現行健保等級の頭打ち二十一級を二十四級にひきあげ（金額にして六百万円）、基礎賃金の九七％を一〇〇％とし、坑内外平均百二十万円ほどの額上げとした。②じん肺・せき損患者の要求については、栄養補給金、退職餞別金の倍増を、③労働時間の短縮について、〝特定休日〟の現行四日を六日間とした。④期末手当は、三十二万五千円を獲得した。もちろんそれは、「実力行使をかけた闘いの成果、前進だ」と、手離しで喜べることではない。退職金・じん肺・せき損・労働時間短縮・期末手当のどれ一つをとっても、要求したものとは大きなへだたりが残っている。

妥結したからといって、闘いがこれで終るのではなく、問題が残った以上、今後は日常闘争の課題とし、組織化・職場闘争の継続、発展をめざす闘いが重視される。

三池労組はこのような視点に立って、職場における労働条件の向上、賃金・労働時間短縮・労働協約の問題、地域における福利厚生、環境衛生などなどを、職場・地域の日常的な諸要求を基礎に、春闘の前段闘争として取り組むことを意志統一した。

高能率＝低賃金、労働強化・保安無視・災害多発・労働時間・福利厚生の低下――どの課題をとらえても、三井資本による搾取の強化・合理化強要が、働く者の生命と健康を奪い、現実生活を破壊している。三池炭鉱労働者すべてが、生活・健康破壊のギリギリの限度まで、押しさげられようとしている。

この冷酷非情な資本の攻撃に対し、抵抗の主体となるのは、三池労組員の一人ひとりである。

われわれは、全国の闘う仲間と連帯を強め、共闘の輪をさらに拡大するとともに、三池炭鉱の企業内における新労組員や三井建設、その他の下請関連作業に従事する数多くの仲間に、職場・地域から掘り起こされた切実な要求を広め、三池炭鉱に働くすべての労働者が一丸となって闘う体制をつくり上げなければならない。

組合幹部を〝惨殺〟

全自運の片岡分会

会社の労務屋が自白

【連合】植月さんは殺されていた――去る九月二十七日以来〝謎〟の失跡〟をしていた全自運大阪合同支部片岡運輸分会・植月一則副分会長（27）が、十一月十六日午後、惨殺され埋められているのが発見された。救出・真相究明に全力をあげていた家族や全自運大阪地本の組合員は、この凶悪な資本のやり口に怒りに燃えている。

組合つぶし狙って

「全自運を切り崩すためには植月さんを落すのが有効だと考え、脱退するよう再三説得したが拒否された。植月さんがいなくなれば全自運の組合は動揺すると思い殺した…」、犯人の一人田辺孝寛（39）は、惨殺の動機をこう自供した。

犯行に加わったのは田辺のほか暴力団山口組系矢倉組幹部の駒野翼（32）と同組員柏木孝夫（33）駒野の友人で自動車解体業はい一吉（31）の四人。九月二十七日早朝、軽乗用車で出勤する植月さんを追い、片岡運輸・茨木営業所付近で停車させ、「全自運を脱退しろ」とつめよった。これを拒否し出社しようとするのを、手足をロープでしばったうえ、車の後部トランクにつめこみ堺泉北臨海工業地帯まで運んだ。そして、強制的に「退職願」を書かせたあと刺し殺したもの。

植月さんと高瀬晃さん（現在分会長）は、劣悪な労働条件を改善するため、昨年の八月頃から組合結成の準備をすすめていた。ところがこの動きを会社が察知。今年三月二日に全自運分会が公然化すると同時に、会社は職制を総動員して第二組合（同盟一般）をつくらせ、全自運破壊にのり出した。三月十日には、数社の労務対策をやっている吉村弘を入社させ、新設の管理部の部長に起用。その後田辺、森本など〝労務屋〟五人を社長決裁で雇い入れ、全自運破壊対策を唯一の仕事にあてさせた。

会社も加担か

田辺、森本は元同盟系労組の委員長で、〝組合つぶし屋〟に転向した男である。田辺の仕事はもっぱら全自運をぬけて同盟へ入れ」などの工作で会社もこれに全面的に協力していた。

会社側はこの植月さん殺害を知っていた疑いが濃い。殺害された九月二十七日午前八時、会社は植月さんの乗務予定の車に他の運転手を乗務させているが、この車のキーは植月さんだけが持っていたものだった。また、九月三十日には、植月さんの妻幸代さんに、「植月さんから送られてきた」といって「退職願」を見せている。これは田辺らが殺害の直前に書かせたもので、当時、幸代さんや組合員は「送ってきた封筒をみせてほしい」と要求していたが、言を左右していた。

現職の組合幹部が会社の雇い入れた「組合つぶし屋」と暴力団員に惨殺される、という事態に全自運は全組織をあげて闘う決意を固めている。十一月二十五日、緊急中執委は①背後関係を徹底的に究明する②片岡運輸は事実を明らかにせよ③片岡運輸と親会社の東洋製罐は不当労働行為をやめよ、など六項目の要求を決め、十二月二日、半日の抗議ストを行った。また、二十六日の総評評議員会でも事態を重視し、全面的な支援を行うことを決めた。

＜激励先＞大阪府茨木市宇野辺、片岡運輸内、全自運片岡運輸分会高瀬晃分会長。